

オーストラリア SDGs セミナーに本校生徒が日本代表として参加

○セミナー概要



この”Sustainable Development Goals Virtual Study Program, Cairns Queensland”は、オーストラリア・クイーンズランド州政府主催の日本の中高生向けの1週間のオンラインSDGsセミナーです。オーストラリアのGBRアカデミーのスタッフを通して、直接グレートバリアリーフの素晴らしさや、今そこで起こっている現実の問題について学び、日本の高校生たちがその問題に対して具体的にどのようなことができるかを一緒に考えることで、日常に小さな変化をもたらし、その小さな変化が世界中で発生することで、大きな変化へと繋がることを目的に行われているSDGs実現に向けたESDプログラムです。全国から応募した高校生の中から10名が選ばれるこのプログラムに本校生徒が選ばれ、貴重な体験をすることができました。

オーストラリア・クイーンズランド州政府主催 SDGs オンラインセミナー 参加レポート

日本代表 3年10組1番 荒川あかり(Akari ARAKAWA)

1. オンラインセミナー セッション概要

【1日目】

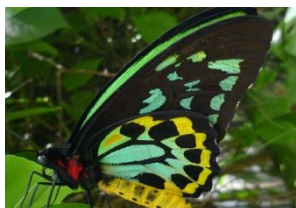
- ・SDGsとはどういったものなのかということについて、スライドと口頭での説明(全て日本語)
- ・事前課題として行った AusID と呼ばれるアプリ(20の質問に答えて、自分の性格などを象徴する動物を選んでくれる)の診断結果をそれぞれ報告し、Michael White さん(AusIDのグローバルディレクター)がそれぞれの動物の特徴について解説し、参加者の質問に答えてくれる時間。

【2日目】

- ・”No more straw”という題の、プラスチックストロー廃止運動家として活動している女の子と今セミナー主催者との対談
- ・海洋生物学者の方によるジェームス・クック大学附属水族館のツアーとお話(海の中の環境問題〔プラスチックバッグやシーグラスをウミガメが間違えて食べてしまうことによる影響〕など)
- ・ケアンズの水族館のビハインドツアー及び案内してくださった教授への質問ができる時間



【3日目】



- ・熱帯雨林の中を船で進み、道中にあるオーストラリア特有の植物についての説明
- ・「蝶の楽園」という、蝶がたくさんいる施設の館長と主催者が「蝶の楽園」を回りながら蝶の生態や具体的な飼育方法などの説明
- ・標本やアルコール保存した植物を多数所持している博物館への訪問（説明はところどころが日本語）
- ・質問時間

【4日目】

- ・アボリジニ（オーストラリアの先住民）の道具や習慣についての説明
- ・アボリジニのダンスのレッスン
- ・アボリジニによる絵画のレッスン
- ・主催者が現地の学校で教えている生徒たち（10歳くらい）とのライブセッション（日本とオーストラリアのSDGs に対しての取り組みについてなど）



【5日目】



- ・オーストラリアに生息する野生動物を飼育する施設での野生動物の生態や飼育方法についての説明（コアラ、ワラビーなど）
- ・オーストラリアに生息する多数の野生動物を実際に紹介
- ・植林についての学習

2. Conclusion

The Sustainable Development Goals (SDGs) are planned to be achieved by 2030. But, every day around the world, more and more problems are arising and they are causing many people and wildlife to suffer. In this seminar, we learned about the environmental problems that the Australian Government has been focusing on. I learned about the environmental problems in my classes at school, but I did not know anything at all about what kind of environmental problems were occurring in the world now. I was surprised and sad when I found out what the problems were actually like. For example, sea turtles sometimes mistakenly eat plastic bags thinking that they are fish. It is very dangerous for them because they cannot digest plastics and, if worse comes to worst, they die. At the end of that day, I began to suspect that similar problems might have occurred in Osaka Bay, so I searched the

Internet for any information about it. What I found was that Osaka Bay also contains a lot of plastic waste. I was not interested in such things before but I reflected on my behavior because I realized that it is a problem that affects me, and I wondered if I too had been a bad influence on the environment.

I was very surprised and saddened, which led me to look carefully at my own life. Australian children are interested in the SDGs and the natural environment in which they live. And they have their own opinions about how they can contribute or do something to maintain and improve the environment, not only in Australia but also all over the world. I had not known anything at all about the SDGs and was not interested in environmental issues until I learned about them in my class, so I was very surprised by their high level of awareness and began to think, "Shouldn't Japanese people think more about the importance of the environment?" I asked my friends, "Do you know what kinds of waste segregation are implemented in the city you live in?" They could not answer this question confidently. This in itself is a serious problem. When the Australian children asked me this question, I was very surprised because I could not answer it but they could answer it perfectly. As mentioned earlier, their level of awareness about the environment is very high.

Their motivation to protect the environment comes not only from their education but also their reflection on the past. Japanese have a history which should be reflected on, but such memories are weathering away day by day, and are slowly disappearing. We must not let them disappear. We must not forget about the people and animals that have been harmed, and be aware that many environmental issues are happening around us. Through this seminar, I felt that Japanese people must begin to think about solutions for how we can protect and improve the environment of not only Japan but the world.

Future goals

Through this seminar, I felt that there are vast differences in the way the Japanese youth and the youth of the world think. Most of the youth living in Japan are not interested in environmental problems. This is very dangerous. If left as is, many of the Japanese youth, when stepping into

the globalized society, will be shut out from the international community due to their lack of awareness of environmental issues. It was much easier to interact with foreigners than I first expected. Since COVID-19 has spread rapidly all over the world, students are now well equipped to use the Internet in school and take classes online. Can we hold more conferences more easily than before the spread of the virus? If we use this system, we can interact with each other without the high costs necessary for traveling. By having the SDGs and environmental issues as major themes in these interactions, the youth of Japan will be able to exchange ideas with people living in foreign countries, revise and improve their ideas, and finally create a more sustainable society for those around them.

“I can accept failure, everyone fails at something.
But I can't accept not trying.” (Michael Jordan 1963~)

Everything is a challenge. Let's learn together.

総括（日本語訳）

SDGsは2030年に達成することを目標としている。しかし、世界にはありとあらゆる課題が日々生まれ、たくさんの人々や生物たちが苦しんでいる。今回のセミナーにおいては、そんな課題の中でもとくにオーストラリア政府が力を入れて取り組んでいる環境問題について学習した。わたしは学校の授業で環境問題について学習したことは合ったが、実際に世界でどのような環境問題が起こっているのかまったくしらなかった。このセミナーに参加して、実際に今起こっている環境問題がどのようなものであるのかを知り、とても驚き、悲しい気持ちになった。例えばウミガメはプラスチックバック（スーパーやコンビニで無料配付していたような色つきの袋）を魚と勘違いして食べてしまうことがあるそうだ。それは大変危険なことで、プラスチックは消化することが出来ないため、最悪の場合死んでしまうこともあるのだという。私はこの日のプログラムが終わった後、大阪湾にも同様の問題が起こっているのではないかと考え、インターネットを使用して調べてみた。すると、大阪湾にもプラスチックゴミが大量に漂着していることがわかった。今まで興味を持つこともなかったが、このような環境問題は他人事ではなく、身近に起こっていることなのだを知り、自分の今までの行動一つ一つが環境に悪い影響を与えていたのではないかと反省した。

とても驚き、深く反省したことがあった。オーストラリアの子供たちはSDGsや自分たちの住んでいる自然環境にとっても興味を持っていて、学校でもそういった教育が盛んに行われているためにオーストラリアだけでなく世界全体の環境維持及び改善のために自分たちはなにができるのか、なにをすべきなのかしっかりと意見を持っていた。私は仰星高校でSDGsについて学ぶまで、SDGsについ

て知らなかったし、環境問題について興味をもったこともなかったので、かれらの意識の高さにとても驚いたし、これまでの自分を深く反省した。日本でもオーストラリアのように SDGs や環境問題についての授業を実施するべきではないだろうか。私はこのセミナーが終わってから友人たちに、自分が住んでいる市のごみの分別は何種類あるか知っているかと聞いた。彼らは一様に知らないと言った。これは問題だと言えるだろう。私も最初、オーストラリアの子どもたちにこの質問をされてひどく驚いた。私は答えることが出来なかったが、彼らは自分の住んでいる州のごみの分別は何種類あるのか正確に答えることが出来た。先述した通り、彼らの環境に対する意識は非常に高い。教育だけではなく、彼らの過去に対する反省が彼らを環境保全に突き動かしているのだ。日本に住む人々は反省すべき過去を持つにもかかわらず、それらの記憶は日々風化し、常に消滅の危機にさらされている。私たちはそれらを消滅させるべきではない。私たちはそれらとそれらにより苦しんだ人々と生物たちのことを忘れてはならず、たくさんの環境問題が身近で起こっていることを自覚し、日本に住む人々はみなそれらに向き合い、解決策を考え、日本だけでなく世界の環境をどのようにして守り、どのようにして改善していくのか考える必要があるのではないかとこのセミナーを通して感じた。

将来の展望

このセミナーを通して、これからの社会を動かしていく若者の間にすでに格差が生まれているのではないかと感じた。日本に住む今日の若者の多くは、このセミナーに参加する前の私のように、環境問題に興味がない。これは非常に危険なことだ。このままでは日本に住む多くの若者はグローバル化の進む社会に投げ出されたとき、周囲との環境問題についての意識の差によって国際社会から締め出されてしまうだろう。今回のセミナーにおいて、外国の人々と交流することはわたしが考えていたよりもずっと簡単なのではないかと思った。コロナウイルスが全世界に蔓延し、外出の自粛や海外渡航の制限がもとめられる今、授業がオンライン会議システムを利用して行われるようになった恩恵で、学校のネット環境が整った。今までは現地に行かなければ実現しなかった外国の学校との交流を、オンライン会議システムを利用して行えば、本来かかるはずの膨大な経費もかからず、今までよりも手軽に交流を執り行うことが出来るのではないだろうか。こういった交流において、大きなテーマとして SDGs や環境問題を取り上げることで、日本に住む若者は外国に住む人々の考えを知り、自らの考えを改め、たくさんの人々と協力し持続可能な社会を作っていけるだろう。

「失敗をすることは耐えられるが、挑戦しないでいることは耐えられない。」

(マイケル・ジョーダン 1963～)

すべては挑戦だ。さあ、一緒に学ぼう。